

REDDプラス ー熱帯林を守る新たな枠組みー

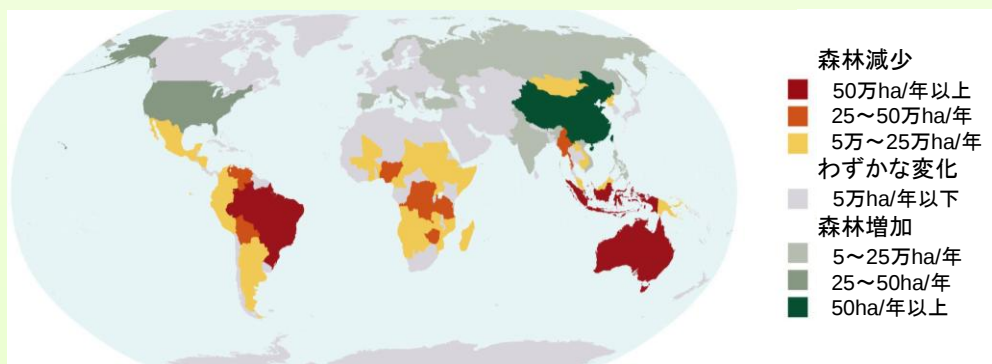


地球温暖化防止の観点から期待されている熱帯林の破壊を止める新しい枠組み「REDDプラス」について、その概要と現状を解説します。

講師 松本光朗
(研究コーディネータ・REDD研究開発センター長)

REDDプラス – 熱帯林を守る新たな枠組み

- ー 地球温暖化を引き起こしている二酸化炭素の増加は、その8割は石油・石炭といった化石燃料によるものですが、2割は熱帯の森林破壊による森林減少によるものです。その中でも特にブラジルのアマゾン、インドネシア、熱帯アフリカは森林破壊が進んでいます。

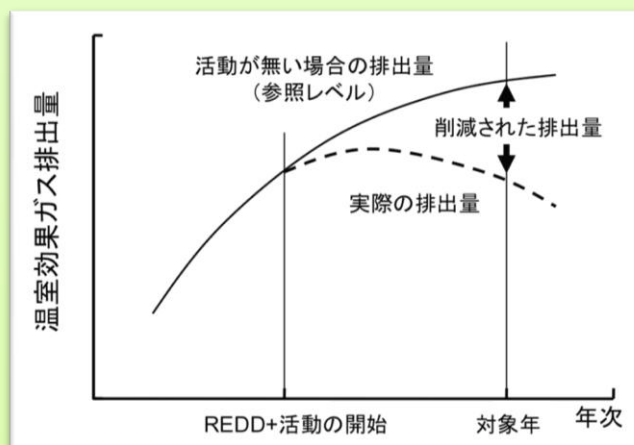


2005～2010年の森林面積の変化 (FAO「世界森林資源報告」より)

熱帯林の森林減少を防ぐため、世界が手を取り合って、**REDDプラス**という新しい枠組みを作ろうとしています。これは、森林減少や森林劣化などを防ぎ、二酸化炭素などの温室効果ガスの排出を減らせば、その量に応じて報償(お金)が得られるという枠組みです。森林破壊は農地開発や都市開発が原因なので、森林を守れば開発をするよりも儲かるようになれば、森林破壊は進まなくなるでしょう。また、森林が守られれば、地球温暖化だけではなく、地域経済や生物多様性の保全などもっと大きな利益が得られるだろうと期待されています。

この**REDDプラス**を進めるためには、途上国が森林破壊を止めるための政策や森林の管理を強化するとともに、どれだけ排出量が減ったかを計るための技術や設備が必要です。しかし、多くの途上国はそのような技術や設備を持っていないため、国際的な支援が求められています。

森林総合研究所では、**REDDプラス**を進めるため、**REDD研究開発センター**を開設し、技術開発、人材育成、情報発信を行っています。



REDDプラスの考え方
削減された排出量に応じて報償が得られる。